

平成 22 年度 第 3 回 JICA 災害に強い学校研修



(コミュニティへの耐震建築の普及に向けて)

- JICA Safer School against Disasters (Dissemination of Anti-Seismic Building for Communities)-



研修期間：平成 22 年 11 月 9 日～12 月 8 日(5 週間)

研修場所：神戸/明石/京都/筑波/東京

研修内容：災害に強い学校建築及び学校を核とした
コミュニティにおける防災の啓発・耐震
建築の普及方法に関する講義/視察

参加研修員：7 名（フィジー 2、ネパール 1、トンガ 1、
中華人民共和国 3）

((独)建築研究所にて講義)

当財団では、独立行政法人国際協力機構(JICA)からの委託を受け、災害に強い学校研修を国連地域開発センター(UNCRD)防災計画兵庫事務所と協力して実施しました。

毎年、世界各国で発生する自然災害において、多くの学校が倒壊するなどの被害を受け、学校に通う子供たちの貴重な命が失われており、子供の命を自然災害から守るために、災害に強い学校を建築することが必要とされています。また、災害に強い学校は、災害時にはコミュニティの避難所としての役割も果たすため、学校における災害対策は、コミュニティにおける防災意識の向上や情報の伝達の場としても重要な役割を担います。

そこで、学校建築の審査・設計及び学校防災の強化に携わる政府や地方自治体の技術者及び政策立案者(教育省・防災教育関係者)を対象に、災害に強い学校を建築するために必要な能力を向上すること、学校を核として耐震建築に関する考え方がコミュニティ全体に広がるような政策を立案することを目的とし、本研修が計画されました。最終年度となる本年は、フィジー・ネパール・トンガ・中華人民共和国(中国)から 7 名の研修員を迎え、神戸市内を中心に 5 週間の研修を行いました。研修員は、専門家による講義や現場視察を通して、ハード面(耐震技術)・ソフト面(防災教育、コミュニティにおける防災意識啓発)の両視点から学校防災推進の重要性を学び、自国における学校の安全性を促進するための政策案を作成しました。



～研修を振り返って～

5 週間の研修の大半を神戸で実施しましたが、研修員は、明石・京都・筑波・東京など複数の都市を研修旅行で訪れ、耐震技術だけでなく、学校防災に関する国の施策やグローバルな動向を学ぶと共に、教育やメディアの役割など多様な切り口からコミュニティにおける防災の啓発活動・耐震建築の普及方法について理解を深めました。神戸では、研修員は、阪神淡路大震災における学校建築の被害の教訓に基づき実施されている、学校の耐震改修と避難所としての機能強化、防災教育や防災マップの作成などの学校を中心としたコミュニティにおける防災推進の取り組みについて学びました。研修員にとって、松蔭中学校高等学校・本山第三小学校・神戸ドイツ学院ヨーロッパンスクールの訪問は、使用されている建材や学校づくりのコンセプトが異なる 3 種の学校建築の耐震技術、防災に関する教育現場での取り組みについて知る非常に良い機会となったようです。東京・筑波では、文部科学省・国土交通省を訪問し、耐震設計・耐震改修に関する法律の整備など学校の安全性確保のための国の施策について学

ぶと共に、耐震改修の工事現場及び耐震実験施設を視察し、世界をリードする日本の耐震技術への理解を深めました。研修員は、東京への移動に使用した新幹線の快適さ・発着時間の正確さに日本の技術の高さを垣間見、駅の混雑具合・東京都心の高層ビル群に圧倒されながらも日本の首都・東京のダイナミズムを肌で感じているようでした。また、京都では、日本最大の木造建築・東本願寺の耐震改修、京町家の修復作業などの耐震技術について学ぶだけでなく、伝統的な街並みを散策し、研修員は、古都・京都特有の情緒溢れる景観に魅了されていました。

研修最終日の閉講式には、JICA 兵庫の伊禮所長及び当財団の大野常務理事からの研修修了に伴う祝辞に答える形で、フィジーの研修員によるウクレレの伴奏にのせて、Isa Lei という歌を研修員全員で歌ってくれました。フィジーでは旅人との別れ際に必ずこの歌を歌うそうで、今回は、原曲の歌詞を一部アレンジし、「日本滞在中のすべてがかけがえのない経験です」「この研修を通して出会った方々に感謝しています」「もうすぐ日本を去ることになりますが、私たちは第2の故郷・神戸で過ごした日々を決して忘れません…また必ず帰って来ます」という感謝の言葉を届けてくれました。美しいメロディと歌詞に込められたメッセージに、会場全体が温かい雰囲気になりました。また、研修員代表挨拶では、「これまで頻繁に発生する自然災害への対応に追われてきたが、本研修で、防災・減災の重要性を改めて認識し、今後は、自国の災害の種類に応じた学校の改修、コミュニティにおける防災マップの作成、防災教育のための教材の開発を進めていきたい」との発言があり、研修で習得した知識・経験を、帰国後、自国の政策及び自身の担当職務にすぐに反映させようとする研修員の熱い意気込みが感じられて嬉しかったです。



(Farewell Song を歌う研修員)

コンクリート建築の学校の耐震改修、木造建築の学校の耐震強化、サイクロンや津波など地震以外の災害に強い学校建築など、国毎に頻発する災害の特徴及び近年の被災事例が異なるため、抱えている課題の優先順位や防災に関する取り組み内容も異なりますが、研修員が日本で得た知識・経験を活かし、自国に適した政策を立案し、各国における安全な学校・コミュニティ作りにも貢献してくれることを期待しています。

研修担当：宮崎 紘子

委託元機関：独立行政法人国際協力機構(JICA)兵庫国際センター

協力機関：国連地域開発センター(UNCRD)防災計画兵庫事務所

講義/視察先：北海道大学/神戸大学/京都大学/松陰中学校・高等学校

本山第三小学校/神戸ドイツ学院ヨーロッパンスクール

国際連合国際防災戦略事務局(UNISDR)兵庫事務所/文部科学省 大臣官房/

国土交通省 関東地方整備局/国土交通省 住宅局/兵庫県耐震診断改修計画評価委員会/神戸市教育委員会/神戸市都市計画総局/神戸市すまいの安心支援

センター/(独)建築研究所/(独)防災科学技術研究所/(財)神戸都市問題研究所

/(財)日本建築防災協会/一般社団法人 京町家作事組/防災世界子ども会議実行

委員会/CODE 海外災害援助市民センター/NHK 大阪放送局/アジア防災セン

ター/人と防災未来センター/(株)エフエムわいわい(現・特定非営利活動法人

エフエムわいわい)/本州四国連絡高速道路(株)/(株)竹中工務店/東本願寺

【順不同】